岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

へびつかい座超銀河団とウオールの構造について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 若松, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/147

§１　はじめに

近年、数千個の銀河の集団である銀河団が再び数個集まって集団を作り、超銀河団（スーパー・クラスター）を形成している事が解っていたが、これら超銀河団が又いくつか連なってより巨大な構造を形成していることが１９８９年、ＣｆＡのグループによる赤方偏移サーベイからわかり、グレート・ウオールと名付けられている。一方、ブロードハーストらにより、100Mpc規模の銀河分布の奥行き方向の周期的な構造もあることが１９９０年指摘され始めた。

１９８１年、きわめて強いＸ線源として若松らによって発見されたへびつかい座銀河団の追跡観測を１９９２年と９３年にセロトロロ天文台等で行なったところ、この銀河団のすぐ北６°の所にもう一つの銀河団があることをつきとめた。これら２つの銀河団の周辺部およびヘラクレス座超銀河団との中間領域について、銀河分布、赤方偏移を観測し、コーン・ダイアグラムを調べることにより次の諸点を明らかにしたい。

１）へびつかい座銀河団を中心として超銀河団を形成しているか？
２）ヘラクレス座超銀河団とつながっていて、へびつかいーヘラクレス座ウオールを形成するか？
３）このウオールとグレート・ウオールとは空間的に互いに100Mpcの規模で直交する構造か？
４）これらの平面的に広がっている大規模構造とブロードハーストらの奥行き構造との類似性や違い

等を調べ、これら大規模構造の成因と宇宙論的意味を解明する。